

しまいろ

SHIMAIRO

No. **1**
2018 spring

創刊号

小豆島の
高校生たちがつくる
小豆島のための
フリーペーパー

帰る。が。

夢を追いかけて
いつかは出てゆくこの島で、
夢を持って働く人たちがいる。
見慣れたこの空も、
夢を追う人たちには
特別な色に見えるらしい。
そんな人たちに
「小豆島ではたらく」を、
教えてもらいました。

「
語る
」



SHODOSHIMA SPORTYZ

事務局長 **渡部** わたべ
かつゆき **勝之** さん

大阪府出身

長年のプロバスケットチームの運営から離れ、ゆったり島暮らしのはずが…？

「島やから」で
諦める事を少し
でもなくしたい

今回私たちが取材させて頂いたのは、小豆島 SPORT YZの渡部勝之(わたべかつゆき)さん。

小豆島に移住して、子どもたちにバスケットボールの指導をしたり、小豆島初のプロバスケットボール公式試合を企画したり、ボルダリング体験ができるイベントを企画したりと、島のみんながスポーツを楽しめるような活動をされています。活動のスローガンの一つが「夢のきっかけ、作り続けます。」この1つだけでも、渡部さんの熱い思いが伝わってくる感じがします。どんなことも、やりたいと思ったら行動する。どんな実現させていく渡部さんの話を聞いてすごく大きなエネルギーをもらうことができました。

なぜ島に来ようと思ったのですか？

きっかけはなんとなく(笑)前の仕事がハードで、「もういいや。」って。妻と子どもと以前遊びに来た島にノリで来てみた(笑)

島のどんどころに魅力を感じますか？

不便やけど、いろいろと諦めがつくところ。みんなは不便やと思うかもやけど、まあまあ船も出るしコンビニもある。そこまで不便じゃなくちようどいい。



なぜ期間限定のクライミングスペースを企画したのですか？

もともとボルダリングは全く興味ない(笑)知り合った仲間がクライマーで、「島にええ岩場あるのに島の人全然知らん。」って聞いた。

それで、島の魅力を発見できる「キーステーション」を作れたらえいなあー、ボルダリングやるうか！ってなったんだよね。

イベントを盛り上げるコツはなんですか？

BBQ思考(笑)対価を払ってサービスを提供する。提供してもらうんじゃないかって全員が作り手になる。文化祭みたいな。あれはみんなやるからおもしろい。いろんな人で作ると、いろいろおもしろいところ。BBQもそうやる？「自分ら」で食材買って、「自分ら」で焼いて、「自分ら」で食べる。食べるっていうところまで楽しんで運営者としてやるっていう風にしたらみんな盛り上がる！

give & takeって
いうのじゃないんや。give & give & …って。
「俺が、私を作ったもの」
これがあると楽しくなる！
あと、飲みに行つてベロベロな状態で話したことも絶対忘れんと、企画書にするっていうことは自分の中でルールにしてる。

高校生でもできることはありますか？

大人ができて高校生ができてんってことはないでな？むしろ大人のほうができることは少ないと思う。高校生だから、大人だから、はない。「高校生だからできません。」は言うて欲しくないなあ。できないことは意外とないよ？



僕の考え自体中2やし、高校生やからつてだけでプレキかけんってほしいかなー。

これから何をしたいですか？

この町に、プロを目指す奴を受け入れて、プロとして世に出してあげるプロチームを作る。「島出身の○○が〜」っていうのを出していきたい。ヨーロッパでは、人口1万の町でもトッププロを生み出す

ような存在感の高いチームはある。小豆島にスポーツの交差点を作る。

人口2万7千の島でも「島やから」って諦めなあかんことを少しでもなくしたい。

遠い将来の個人的な夢は、フレトピアで、70歳ぐらいになつてもホットドッグを投げてるおっさん。ただそれになるにはフレトピアが、人のワイワイ集まる場所じゃないとでんし売れん。何かでみんなが盛り上がりんと売れん。僕自身も名物おやじになつとかんとホットドッグは売れん。「認められるような人間になること」が最終目標。



協賛広告

今回の活動においてご賛同いただきました。

企業の皆さんです。ありがとうございます。ございました。

いただいた熱いメッセージから小豆島への愛が伝わってきます。

「しまいろ」を通して「気軽に帰ってきたくるよう小豆島」が

読んでくれた皆さんに伝わりますように...

これからの100年もオリーブとともに

株式会社オリーブ園

企業紹介

もっとオリーブの良さを体感してほしい、オリーブを愛する人がひとりでも増えてほしい。1973年、その使命を体现するために「観光農園」として小豆島オリーブ園がスタート。現在では、樹齢100年のオリーブの原木の森や、イサム・ノグチの遊具彫刻など、五感を使って楽しめる施設に。これからの100年もオリーブとともに歩んでいきます。

高校生へのメッセージ

皆さんが当たり前のように過ごしている風光明媚な小豆島の環境が、どれほど恵まれているかということ島外から戻ってくると実感します。もちろん不便なこともあります。故郷小豆島を誇りにして下さい。

お問い合わせ先

0879-82-4260



小豆島が世界に誇る景勝地 日本三大渓谷美

小豆島総合開発株式会社

企業紹介

寒霞渓はおおよそ1300万年前の火山活動によってできた安山岩、集塊岩などの岩石が長い年月の地殻変動や侵食により、そそりたつ奇岩怪石の絶景をつくりあげた瀬戸内海国立公園。変化にとんだ渓谷は、日本三大渓谷美のひとつとして称され小豆島が誇る景勝地となっている。日本で唯一、『空・海・渓谷』を一度に眺望できる島のロープウェイを運営するのが、小豆島総合開発株式会社。「今後はトレッキングにも力を入れていきたい」と佐伯社長は話す。

高校生へのメッセージ

これからは場所ではなく個人の時代。何のために生きていくのか？これから人口が減り職種も変わる中で、君たちの世代は親の世代より必ず苦勞します。物事は変わっていくけれど、本質は変わらない。どうか負担に思わないで、学んだことを活かして無から有を生み出し、新しいルールの社会を創って助け合って生きてください。



[採用情報]

寒霞渓に秋に来た老夫婦が、春に「また一緒に来られました」と戻ってきます。私たちが思い出のきっかけになれば嬉しいです。観光とは満足と安全。色んな人と接するから面白い。「自分はどう思う？何を感じる？」を大切に、国立公園第一号の名に恥じぬよう、一緒に頑張ってくれる仲間を募集します。チャレンジしてやってみませんか？お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先

0879-82-2151

神戸～高松・小豆島を結ぶ快適な海の旅

ジャンボフェリー株式会社

企業紹介

ジャンボフェリー株式会社は神戸～小豆島～高松を結ぶ、海運会社です。昨年には航路開設して140周年を迎えました。

小豆島へは平成23年7月より就航し、『小豆島ジャンボフェリー』の愛称で、今年の7月に就航7年を迎えます。関西と香川県を様々な『人・物・想い』をフェリーで運び『旅客事業・物流事業』を通して社会貢献を果たし、地域の皆様にとってより大切な交通インフラを目指しています。

高校生へのメッセージ

小豆島中央高校の皆様へ

私達『小豆島ジャンボフェリー』は小豆島坂手港に就航してもうすぐ7年を迎えます。小豆島中央高校の生徒の皆様が、小学生の時に就航いたしました。港では様々な人の『希望や出会い・別れ』をお見掛けする場面が沢山あります。その度に大切な時間をそのままに送り届けるフェリーであり続けていきたいと思えます。



[採用情報]

- ・営業所: 神戸支店、高松支店
 - ・従業員数: 80人
 - ・事業内容について(一例)
 - ・旅客営業(国内旅客・インバウンド旅客・商品企画) 旅行代理店等への営業やツアー企画・イベント企画を行います。
 - ・物流営業(国際物流・国内物流・内航貨物・国内外輸送手配) 国内外の物流会社との貨物営業や輸出入貨物の手配業務を行います。
 - ・業務部門(予約管理・入出港業務・チケット販売・電話受付) 乗船されるお客様の電話対応・チケット販売等の接客業務を行います。
- ジャンボフェリーはエネルギーを持った人材を募集しています。

お問い合わせ先

078-327-3111

小豆島の思い出づくりをサポート

一般財団法人 小豆島ふるさと村

企業紹介

小豆島ふるさと村は滞在型、体験型の観光施設でもあり、小豆島におけるイベント等の発信基地です。島外からの観光客にシーカヤックなど様々な体験教室や体育施設、ファミリープール等で思い出づくりをサポートしています。宿泊施設は、「日本夕陽百選」に認定された絶景の夕陽が自慢の『国民宿舎小豆島』、『ふるさと荘』の宿泊施設とオートキャンプ場もあり、滞在しながら体験、観光を楽しめるレクリエーション施設です。

高校生へのメッセージ

皆さん、生まれ育った小豆島が好きですか？素晴らしい家族と地域社会の皆さんに囲まれてこんな幸せなことはありません。皆さんの成長を見守ってくれた家族・地域社会が小豆島にあったことは最高に幸せです。夢の実現を目指してベストを尽くしてほしいと思えます。未来は、可能性に満ちています。育ててくれた小豆島、地域社会に感謝の気持ちを持って前向きに明るく頑張ってください。



[採用情報]

小豆島ふるさと村は、宿泊、調理、施設管理、接客、サービス等の数種の職場がありますが、小豆島の良さを島外に発信する会社でもあります。各部門の先輩が仕事のイロハをやさしく教えます。宿泊業、接客業に加え小豆島の自然を生かした体験に興味がある方を募集しています。

お問い合わせ先

0879-75-2266

十色 後書

あとがきといろ

担当アイコン

- 編集
- ライター
- イラスト
- カメラ

岡本 早紀子



フリーペーパーの取材などを通して名刺を使った挨拶などができて、とても新鮮だった。
小豆島の魅力をたくさんの人に知ってもらいたいです。

佐伯 真由



アイデアを出しあっている時が
とても楽しく、形になったときの
感動はすごいみたいです。
とても貴重な体験をさせてもらって
いると思います。

多田 裕紀



僕は島のことをもっと深く知りたい
と思い参加しました。部活と両立して
担当を与えてもらえ、気軽に参加する
ことができました。少しでもこのプロ
ジェクトに関われたことで、島のことが
もっと好きになりました。

秋田 麻琴



念願のインタビュー、最初は
何を聞けばいいかわかり
ませんでした。話を聞く
うちに次々と質問できるよう
になりました。とても楽しかったです！

震 夏瑞奈



今回の取材で島の未来について真剣に考える
人たちの熱意を大いに感じ、私もこれからの
活動により一層力を入れていこうと思いました。
1人でモタタクの方に読んでもらえるような
フリーペーパーにしたいです😊
これからよろしくお願ひします。

岡田 真奈



初め2の争いは「取り」取材や打ち合わせ
などとても緊張しましたが、だんだん2があ
がっていくうちにすごく楽しくなりました。
このフリーペーパーで小豆島がもっとも、と元気
になれば良いと思います!!!!

横山 紗映莉



おたかい島民に自然豊かな環境をもつ小豆島が私は大好きです。
今回の活動に参加して、さらに小豆島愛が強まった気がします！
「しまいろ」が多くの人のもとに届き、何か少しでも良い影響を与えますように...★

長谷川 清満



普段、話せないような方としゃべれて貴重な体験が出来て良かった。

吉田 由佳里



小豆島について考えたり、リターンされた方を取材して、島に対するイメージがプラスに変わりました。
あまりできない貴重な体験だったのでとても楽しかったです。

飛多 麻里



このフリーペーパー作成を通して、小豆島のことにさらに詳しく知りたいと思いました。
また、ライターとして限られた時間の中で取材をし、文章を書くことは難しかったがやりがいがありました。このプロジェクトでこのような体験ができて本当に良かったです。

綿谷 美和



最初は不安もありましたが、島の未来について考えるいい機会になりました。たのしかったです！！

村上 花梨



小豆島のこについて友達と意見を交換したり、おしゃべりしたりして楽しくこれからのこについて考えられました♡
小豆島のいいところをもっと見つけたいと思いました！

編集スタッフ募集中

私たちと一緒にフリーペーパー「しまいろ」を作りますか？



気になる方は、橋本先生・メンバーまでお声かけください。

山口 奈実



少子高齢化・若者離れが進む小豆島で、島の魅力をもっと知ってほしいと思い、この活動に参加しました。
フリーペーパーを通して、島の良さ・魅力を再発見してもらえると嬉しいです。多くの人に取材する機会はないかな？貴重な経験ができました。ありがとうございました。

泉谷校長先生

泉谷校長先生にしまのみらいプロジェクトに対する思いを伺った。
校長先生は、学校目標の1つに「小豆島」と定めたように、小豆島中央高校生には小豆島のことを深く知り、すばらしさを理解してその魅力を生徒自ら発信できるようになってほしいという思いがある。
この活動を通して普段気づかない小豆島の良さをより多くの生徒に伝え、卒業後も島とのかかわりを持ち続けることを期待している。

取材・文／飛多 麻里

橋本先生

しまのみらいプロジェクトに対する2つの思いを橋本先生から聞きました。
1つ目は、島を離れていく高校生に、もっと島を知り、島を考えるきっかけにってもらうこと。
2つ目は、このプロジェクトに参加している生徒が、人と関わり合う力と自分の思いを表現する力を身につけること。
そして、高校生が都会に出ていったとしても、ふるさとの島に帰ってこようと思えることが島の活性化につながっていくと話してくれました。

取材・文／多田 裕紀

プロジェクトの目的とは？

このプロジェクトは、社会に出た時に役に立つ力
(自ら考え、他人を巻き込みながら行動し、形にする)を身につける場とするものです。

小豆島を離れた時に、自分たちに何ができるのか、帰ってくる時に何をもち帰りたいのか、を小豆島を離れる前に、島の良さや働く人たち・仕事をよく知り、進学または就職後にUターンを考えるきっかけになってほしいと考えています。

活動としましては、定期的にワークショップを開催し、取材や執筆のノウハウを学び、高校生発のフリーペーパーを発刊し、また地域の素材を生かしたオリジナルの商品開発も今後展開していきたいと考えています。

